

令和2年度10月試験 システム監査技術者試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT人材教育研究部 2020,12,25

10月18日(日)に行われた令和2年度の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。新型コロナの影響で4月に実施予定だった試験が延期され10月に実施されたものです。IPAから発表された得点分布など統計データの分析をもとにして、システム監査技術者試験の合格発表コメントをお知らせします。

■システム監査技術者試験 (AU)

[令和2年10月実施 システム監査技術者試験 統計情報]

応募者	2,350人
受験者	1,702人
合格者	260人
合格率	15.3%

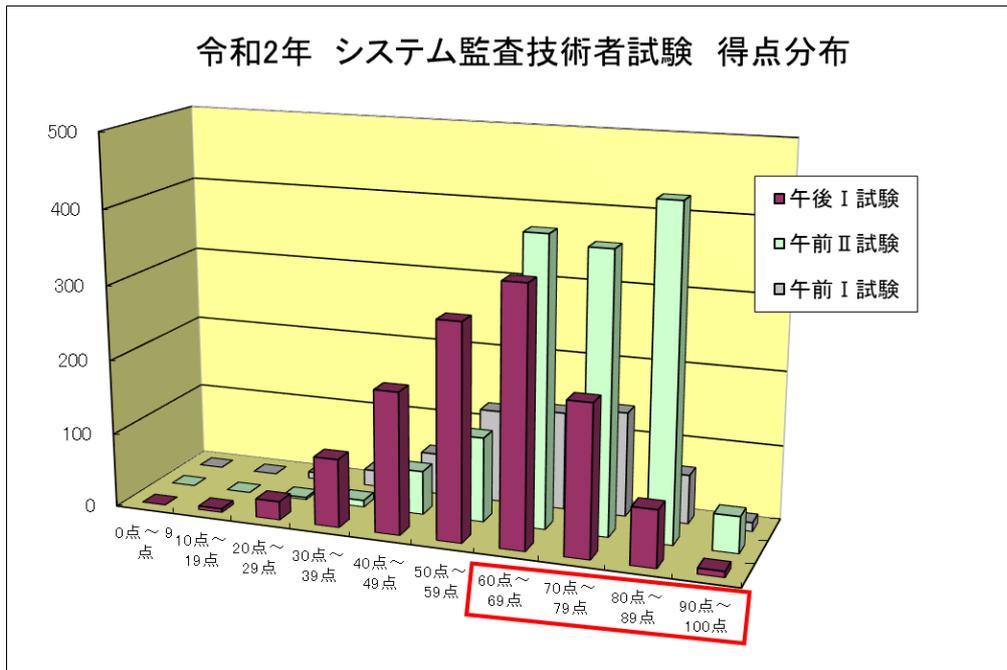
令和2年10月実施のシステム監査技術者試験の合格率は15.3%で、前回の14.6%から微増となりました。今回新型コロナウイルスの影響で受験者は大幅に減りましたが、受験率は高くなっています。

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[令和2年10月実施 システム監査技術者試験 スコア分布]

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	0	0	0		
10点～19点	0	0	5	D	19
20点～29点	9	3	25	C	100
30点～39点	22	9	92		
40点～49点	56	59	190	B	244
50点～59点	125	114	288		
60点～69点	132	387	343		
70点～79点	141	374	202	A	260
80点～89点	66	439	76		
90点～100点	12	49	8		
計	563	1,434	1,229	623	260
対前試験比率		254.7%	85.7%	50.7%	41.7%
午前免除者(概数)	1,139	66.9%			

合格者数	260	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	351	62.3%	91
午前Ⅱ60点以上合計	1,249	87.1%	989
午後Ⅰ60点以上合計	629	51.2%	369
午後Ⅱ-A評価	260	41.7%	0



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 1,139 人 (66.9%) おり、受験者の 7 割弱の人が午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 351 人 (受験者の 62.3%) でした。

午前 II 試験で基準点以上の人は 1,249 人 (受験者の 87.1%) で前回の 68.5% から 20% 近くも上がりました。

午後 I で基準点 (60 点) 以上取れた人は 51.2% で、前回の 55.8% から少し減少しました。

午後 II で合格点の A 評価だった人は 41.7% で、前回試験の 45.9% と比べてこちらも少し減りました。新しいテーマの出題があった影響が出た可能性があります。

■令和 2 年 10 月実施 システム監査技術者試験の出題内容について

(午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれていて、テクノロジー系 17 問 (57%)、マネジメント系 5 問 (17%)、ストラテジ系 8 問 (26%) という出題比率です。毎回、午前 I 試験を通過できる 60 点以上の得点者は 5~6 割で、足元をすくわれないう、確実に対策を進める必要があります。

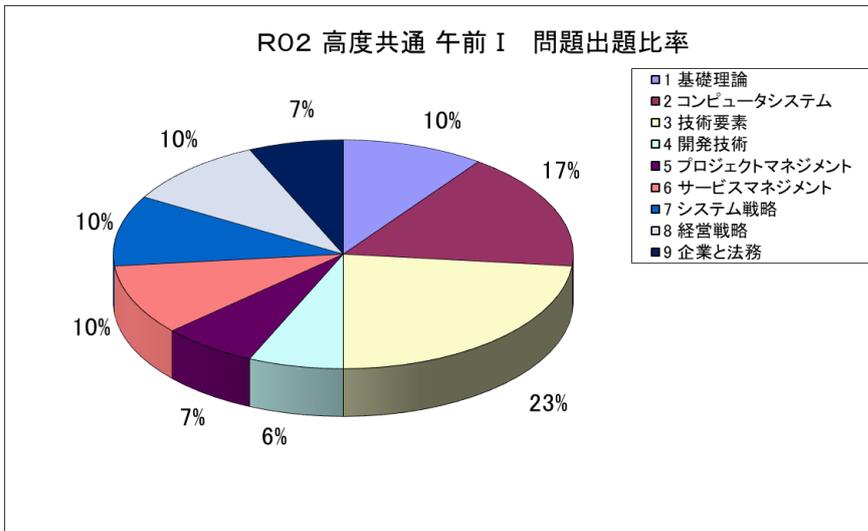
問題内容は、文章問題は 14 問 (前回 21 問から減)、用語問題は 7 問 (前回 1 問から大幅増)、計算問題が 5 問 (前回も 5 問)、考察問題が 4 問 (前回 3 問から増) でした。これらは毎回増減がありますが、今回特に用語問題が増えました。

- ・問題は出題範囲からまんべんなく出題されることが多いのですが、今回は、ヒューマンインタフェース、マルチメディア、システム企画、技術戦略マネジメントの 4 分野からの出題がありませんでした。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問でした。
- ・過去問題はこれまで約 7 割ありましたが、今回は新傾向問題が増えたため 6 割に減りました。内容的には定番問題が多く解答しやすかったといえ、全体として前回と同様レベルの試験だったと思われます。
- ・新傾向問題は次の 8 問で前回の 6 問から増えています。それ以前は平均 4 問程度だったので増回傾向にあるといえます。

(新傾向問題)

- 問 3 オブジェクト指向のプログラム言語
- 問 5 サーバコンソリデーションの説明
- 問 6 仮想記憶方式のプリページングの特徴
- 問 15 メール本文を含めて暗号化するプロトコル
- 問 17 アジャイル開発手法のスクラムの説明
- 問 27 CPS (サイバーフィジカルシステム) を活用している事例
- 問 28 企業システムにおける SoE の説明
- 問 30 プロバイダ責任制限法が定める送信防止措置

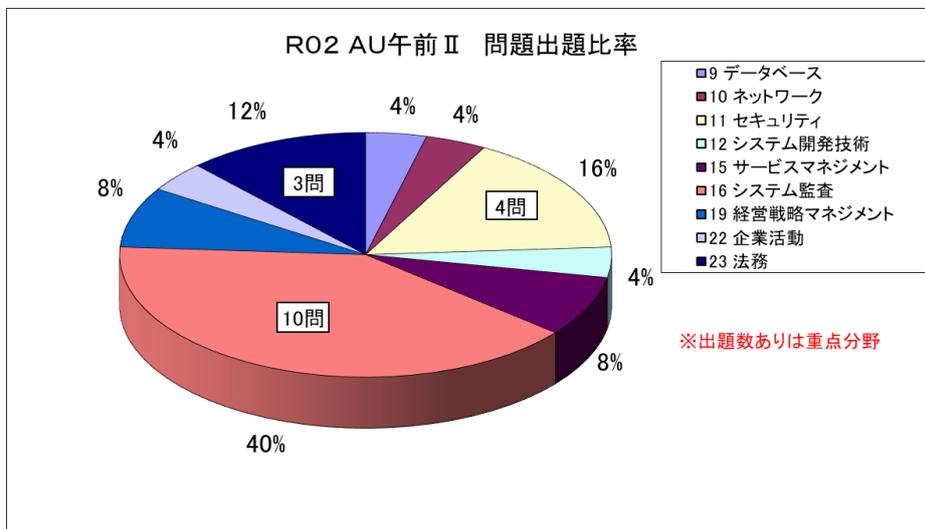
令和 2 年 10 月実施 高度試験共通 午前 I 問題出題比率



(午前 II 試験 (専門知識問題))

監査の専門分野からの出題数は前回と同じ 10 問で、ここ 4 回同じ出題数です。システム監査の事例では、ネットワークやセキュリティの技術を理解している必要があるものが多いので、不足している知識を日頃から身につけていく学習が必要です。また、レベル 4 の最も難しい内容まで出題することになったセキュリティの問題は前回より 1 問増えて 4 問出題されました。

令和 2 年 10 月実施 システム監査技術者試験 午前 II 問題出題比率



過去のシステム監査技術試験問題の出題は9問でした（前回8問）。この中で、平成30年の試験から3問と最も多く出題されていました。

新傾向問題は次の5問がありました。前回の7問からは減っています。

問2 システム監査の品質（システム監査基準）

問11 SLAを作成する際の検討順序

問14 職務発明に基づく特許の取扱い

問20 サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワークの策定目的

問24 VRIO分析

〔午後Ⅰ試験〕

午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。問1ではDX推進体制と取組みの監査という新しいテーマで出題されましたが、問題事例を理解するのに技術知識が必要なものは特にありませんでした。問2と問3はオーソドックスなテーマですが、問題文がやや難解で、経験をもとにした解答記述が求められます。

問1 デジタルトランスフォーメーション推進プロジェクトの監査（製造業） やや易～普通
デジタル経営構想のヒアリング、予備調査、DXの捉え方、推進体制、PJの活動目標・活動状況、関連施策状況、本調査の検討、監査手続（人材確保、リスク対応）、ルールの整備理由

問2 システム監査計画（中堅証券会社） 普通～やや難
システム監査中期計画と年度計画の概要、個別監査計画、計画への社長指示、プロジェクトの監査、監査対象の選定方法、会議の利点・問題点、計画の具体的内容、分析ソフトの活用

問3 システムの有効性の監査（保険会社） 普通～やや難
ITガバナンス、情報システム戦略委員会、開発体制、開発年度計画策定手順、投資効果検証、対象案件ヒアリング、課題認識、対策検討状況、評価プロセスのリスク、内部監査部の確認事項

〔午後Ⅱ試験〕

午後Ⅱ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。前々回のアジャイル、前回のIoTシステム企画に続き、今回はAI利用システムの企画・開発に関する監査という新しい内容の問題が出題されました。記述内容が絞り込まれているため、経験がないと記述しづらかったといえます。

問1 AI技術を利用したシステム企画・開発に関する監査について
AI導入事例紹介、AIシステム現状の問題点、AI技術の利用目的とシステム概要、利用段階の想定リスク、導入目的・開発手法・ユーザとベンダ間の取決め確認で実施した監査手続

問2 IT組織の役割・責任に関するシステム監査について
環境変化に対応する組織の役割・責任の見直しと変更、要員確保と調整、開発と運用の失敗リスク、新たに発生するリスクと対応策、取組状況確認の監査手続・留意事項

